

論文内容要旨(甲)

論文題名 : Immunohistochemical characterization of non-epithelial cells in spiradenoma (らせん腺腫における非上皮系細胞の免疫組織学的解析)

掲載雑誌名 : Journal of Dermatology Vol 41, 2014 年掲載予定

内科系皮膚科学 飯田剛士

内容要旨 :

【背景】電顕的観察において、らせん腺腫の腫瘍実質内にはランゲルハンス細胞を含む非上皮系細胞が分布することが報告されているが、その免疫フェノタイプ別の密度については不明である。近年の免疫組織化学の進歩により、retrospective にらせん腺腫のような稀少疾患についてもパラフィン切片を用いて細胞表面マーカーの検討が可能になった。

【目的】らせん腺腫の実質と間質における非上皮系細胞の免疫フェノタイプ、分布を免疫組織学的に明らかにし、非上皮系細胞の意義を明らかにすることを目的とした。

【対象と方法】過去 10 年間に昭和大学病院附属東病院と昭和大学藤が丘病院で経験したらせん腺腫 5 症例の手術標本を対象とした。切片を脱パラフィン後、抗原の賦活化を行い、CD1a、CD3、CD4、CD8、CD56、CD68、CD79a、ICAM-1、HLA-DR のマーカーについてアミノ酸ポリマー法により免疫組織化学的検討を行った。また S100 と CD1a および CD3 と CD1a の二重免疫蛍光抗体法を施行し、DP manager を用いて画像を重ね合わせることで両者の位置的関係を検討した。

【結果】5 症例の染色結果はほぼ同様であった。CD1a 陽性ランゲルハンス細胞と CD3 陽性 T リンパ球は腫瘍の実質に均等に多数分布していた。CD4 と CD8 はいずれも主に実質に分布していたが、CD8 陽性細胞の方が優位であった。CD56 陽性 NK 細胞は実質、間質のどちらにも認められなかった。CD68 陽性マクロファージは間質にのみ少数分布していた。CD79a 陽性 B 細胞は実質と間質に少数分布していた。ICAM-1 は実質の非上皮系細胞と一部の上皮系細胞に分布していた。HLA-DR は非上皮系細胞の他、上皮系細胞の一部に陽性であった。二重免疫蛍光抗体法では実質内の S100 陽性細胞

胞の大部分が CD1a でも陽性であった。S100 陰性 CD1a 陽性細胞も少数認められた。CD1a 陽性細胞のほぼ半数に CD3 陽性 T 細胞と接触する像が見られた。

【結論】らせん腺腫の実質内には抗原提示細胞である CD1a 陽性ランゲルハンス細胞と T リンパ球が高頻度かつ均等に分布している点でユニークな腫瘍と考えられた。実質内の非上皮系細胞は CD8 優位の T 細胞が大部分を占めていた。実質内でランゲルハンス細胞と T 細胞の接触像が見られたこと、非上皮系細胞のほか上皮系細胞にも HLA-DR の発現がみられたことから、何らかの腫瘍免疫機序が働いている可能性が示唆された。